

現代語訳すれば

田 中 翁 碑

「田中徳重翁さんは、嘉永二年(1849)に平賀の徳左衛門さんのご長男としてお生まれになりました。22歳のとき、父親の財産を相続などせず、新たに一家を構え独立自営の途に就かれました。

そもそも徳重翁さんは生まれついて賢いこともあり、農業経営の道で特に其の天性の才能を発揮しました。

その経営にあたっては、確固とした信念のもと、勤勉にして節約を重んじ、そして人並み以上の努力を惜しまずに物事を推し進める。という身についた素晴らしい品性は、遂に晴れがましいことに南佐久郡内屈指の財産を築き上げることとなりました。

徳重翁さんは、内山峡からの河川による洪水と氾濫により、流域の村々の土地が荒れ果て、雑草が生い茂るままと嘆き悲しみ、洪水から郷土を守るため、私財を投じ堤防の修築や、河道を改修し氾濫を防いだ結果、実り豊かな水田として5.6ha(17,000坪)も開田することが出来ました。

これは、とりもなおさず徳重翁さんの目のつけどころの良さ、そして物事を恐れない勇気が人々より遥かに抜け出ていることから成しえたことであり、そのことを私たちはよく知らなければなりません。

徳重翁さんの心が目指すところは社会の発展であり、その優れて賞すべき行いはこれまでも数多く行ってきています。

徳重翁さんは人情に厚く、誠実で心づかいの細やかさは世の人々を超越しています。そのようなことから近くの村々を挙げて、徳重翁さんのこれまでの善い行いを褒め称えることにしました。

徳重翁さんは今年で80歳ちょうど、年はとっても丈夫で元気、幸福でご長命、すべてが満ち足りていることはああ何て偉大なことでしょうか。

今ここに、心ある人々が相図って、徳重翁さんが生きているうちに石碑を建てて、ご功績を永遠に明らかなしようにしました。ついでには私がお功績を称える文章を考へ、そして書き記しました。

昭和二年五月

子爵 洪沢栄一 題額

長州 佐藤寅太郎 撰並書

沼田 刻